

写

答 申 書

令和3年3月19日

亀岡市上下水道事業経営審議会

令和3年3月19日

亀岡市長 桂川孝裕様

亀岡市上下水道事業経営審議会

会長 原田禎夫

亀岡市上下水道ビジョンの策定について（答申）

令和2年8月25日付け、2総経第1052号で諮問のあった標記の事項について、次のとおり答申します。

1 答申

亀岡市の上下水道事業は、水道の供給開始から 61 年、下水道の供用開始から 37 年が経過し、「造る時代」から「維持する時代」へと移り変わっている。

また、人口減少に伴う水需要の減少、施設の老朽化、常態化する自然災害への対応など、本市をはじめ全国の水道・下水道をとりまく環境は、これまでにない厳しい状況になっている。

このような中、本市の上下水道事業の存在意義や使命をもう一度問い直すため、今後の事業運営の指針となる「亀岡市上下水道ビジョン」（以下、「ビジョン」）の策定について、令和 2 年 8 月 25 日に桂川孝裕亀岡市長から諮問があり、4 回にわたる審議を重ねてきた。

安全で快適な暮らしを支える本市の水道・下水道として、ビジョンにおいては、基本理念のもと、目指す将来像、基本目標、今後 10 年間の取組事項や収支見通しを示し策定されており、その内容は上下水道事業の持続的な運営を行うために必要な事項を網羅していると考え、妥当なもの判断する。

一方、このような取り組みの重要性を認識していることを承知しつつ、以下のとおり意見を申し添える。

2 意見

(1) 経営のあり方について

水需要の減少、施設の老朽化、常態化する自然災害など、上下水道事業を取り巻く厳しい環境に対応するには、必要となる資金を調達することができる財務体質に改善していくことが求められる。

本市の水道事業においては、京都府下の15都市で最も安い水道料金である一方、多額の企業債残高を抱えており、下水道事業においては、京都府下でも高い水準の下水道使用料であるが、多額の企業債償還により資金不足が続いている。

施設更新に必要な費用など、現役世代と将来世代の負担のバランスに配慮した適切な料金負担を含めた制度の見直しを検討するべきと考える。

(2) 人材の確保と育成について

人材の確保と資質の向上は、持続的に事業を運営するうえで根幹となる部分である。熟練技術職員の退職による技術職員の不足により、職員の技術の継承や知識の蓄積が十分にできず、水道・下水道の技術レベルの低下を危惧する。

職員の在職期間の長期化による専門性の向上を図るなど、対策を強化する必要がある。

(3) 広報の充実について

上下水道事業に対する市民の理解を深めていただくためには、さまざまな手法を用い、積極的に情報発信する必要がある。特に、料金改定を検討する際には、市民への周知と理解が重要である。

本市の水道水のおいしさを客観的にわかりやすく示すとともに、上下水道事業の仕組みや経営状況への理解を深める広報の充実が望まれる。

3 今後の水道・下水道について

ビジョンの基本理念のとおり、本市の水道・下水道がこれからも多くの市民に安全で快適な暮らしを「あたりまえ」に提供できるよう、本答申をもとに、上下水道事業者と市民がともに考え、力を合わせて取り組むことで、50年先、100年先の未来に本市の水道・下水道をしっかりと引き継いでいってもらうことを強く願うものである。

亀岡市上下水道事業経営審議会の審議経過

開催日		審議内容
第1回	令和2年8月25日	(1) 諮問「亀岡市上下水道ビジョンの策定について」 (2) 亀岡市上下水道ビジョンの概要について
第2回	令和2年10月29日	(1) 亀岡市上下水道ビジョン案の審議 (第1章～第4章)
第3回	令和2年12月23日	(1) 亀岡市上下水道ビジョン案の審議 (第5章～第7章) (2) 亀岡市上下水道ビジョン策定に係るパブリックコメントの実施について
第4回	令和3年3月19日	(1) 亀岡市上下水道ビジョン策定に係るパブリックコメントの実施結果について (2) 「亀岡市上下水道ビジョン」答申案の調整

亀岡市上下水道事業経営審議会委員名簿

(五十音順：敬称略)

氏 名	選出区分	役 職 名
安 藤 智 美	需要家代表	NPO 法人亀岡子育てネットワーク 副理事長
井 木 悦 夫	学識経験者	税理士
石 山 耐 子	需要家代表	亀岡市女性人材登録 公募委員
太 田 達 也	学識経験者	京都市上下水道サービス協会 理事
木 村 好 孝	公益代表	(福) 亀岡市社会福祉協議会 会長
小 林 仁	公益代表	本梅町自治会 会長
櫻 井 邦 男 (副会長)	公益代表	亀岡地区西部自治会 会長
田 中 達 也	学識経験者	元長岡京市上下水道部長
原 田 禎 夫 (会長)	学識経験者	大阪商業大学 准教授
藤 川 義 雄	学識経験者	京都先端科学大学 教授
渡 辺 栄 美 子	需要家代表	亀岡商工会議所 女性会会長